

# まちの話題

## 身近な人権について考える機会に

光市大和地域人権を考える集いで、12月11日、大和スポーツセンターで、「光市大和地域人権を考える集い」を開催しました。

この集いは、小・中学生が日ごろ感じた身近な人権問題について書いた作文発表と、人権が尊重された心豊かな地域社会をテーマにした講演を通して、身の回りにおける人権にかかわる諸問題について考えてもらうと、毎年行っているものです。

ポスターの部と作文の部の優秀作品の表彰後に作文発表が行われ、続いて宮内茂則先生による、「ともに生きる社会をめざして〜なくそうバリア〜ふやそう心のバリアフリー〜」と題した講演が行われました。

講演では、宮内先生の内容の濃い

お話や会場の雰囲気を感じて、お話を聴く参加者は引き込まれ、身近な人権について改めて考える良い機会となりました。

先生が投げられた「関心をもつこと。気づくこと。触れ合うこと。」といった心のバリアフリーの意識は、地域全体に、さらには光市全体へと広がっていくことでしょうか。

優秀作品として受賞された方は、次のとおりです。（敬称略）

【ポスターの部】  
吉村佳那子（塩田小学校）、岡田佳子（三輪小学校）、古田文崇（岩田小学校）、金光愛美（東荷小学校）、国本由香（大和中学校）

【作文の部】  
小田修平（塩田小学校）、久村恵未莉（三輪小学校）、藤井歩（岩田小学校）、金光愛美（東荷小学校）、中上依美里（大和中学校）



## トナカイも待っています

冠山総合公園イルミネーション点灯式

12月1日、灯花祭開催のスタートイベントとして、「イルミネーションの点灯式」を行いました。

18時、ひかり吹奏楽団のファンファーレの合図で小型電球5000個を使って作られたイルミネーションに火が灯され、公園入口は幻想的で華やかな空間になりました。今年度は木やフェンスのイルミネーションだけではなく、そりを引くトナカイも登場。昨年以上に華やかなイルミネーションとなりました。

寒い中駆けつけた小さな子ども連れの家族からは、「きれい！」「見て、トナカイがいるよ！」「など歓声が上がりました。



## 次は60を目標に！

第4回全国障害者スポーツ大会で宮本廣美さんが銀・銅メダル

11月13日から15日に埼玉県で開催された「第4回全国障害者スポーツ大会」において、フライングディスク競技で優秀な成績をおさめた宮本廣美さんが、11月22日に末岡市長を訪問しました。

宮本さんは、「大会では緊張した。〜とのことですが、ディスタンスの部（距離を競う競技）では自己新記録の29メートルを投げ銀メダルを、アキュラシー・ディスプレイット・ファイブの部（5メートル先にあるリングにディスクを投げて通す競技）では、6枚を通して銅メダルを獲得。『次は60メートルを目標に頑張りたい。』と次の大会への意欲を見せていました。



## かすかな羽音や鳴き声に耳を澄ませて

冬鳥をたずねる会

12月5日、冠山総合公園で豊かな自然と親しみながら公園周辺に生息している鳥を観察しようと、「冬鳥をたずねる会」が開催されました。

強風吹き荒れる中、日本鳥類保護連盟専門委員の山本健次郎さんと山口大学教育学部附属光小学校教諭の村中政文さんの案内で、冠山総合公園を出発した13人は、コバルトライン、萩の平、千坊台を通って冠山総合公園に帰ってくる全長約3kmの道のりを歩きました。

参加された皆さんは、1羽でも、1種類でも多くの冬鳥を見つけようと、かすかな羽音や鳴き声に耳を澄まし、22種類もの野鳥を発見。予想以上の種類の野鳥を見ることができて、皆さん満足そうでした。



## 教育施設の

### 災害復旧のために

寄付金をいただきました

11月30日、東京都在住の橋本宏さんから、100万円の寄付をいただきました。橋本さんは、光市ふるさと功労栄誉市民の故橋本内匠さんのお子さんで、室積小学校が台風の被害を受けたことを知り、被災した教育施設の復旧にぜひ役立ててもらいたいと寄付を申し出られました。

市では、いただいた寄付金を子どもたちが安心して学校生活を送れるよう、室積小学校をはじめ台風により被災した教育施設の復旧にあてることにしています。

また、国際ソロプチミスト光からも、台風18号による公共施設の災害復旧の支援金として、市に10万円の寄付をいただきました。市では、小・中学校の屋根やフェンスなどの補修にあてることにしています。



## おばあちゃん上手だね！

大和保育園もちつき会

12月14日、大和保育園で園児と老人会（むつみ会）の皆さんが、毎年恒例の「もちつき会」を行いました。

杵と臼を使ってのもちつきに、子どもたちはおはしゃぎ。「よいしょ！よいしょ！」と大きな声をかけながらもちをつきました。おもちをついたら、次は丸める作業。「上手に丸めたね。」と声をかけられ、子どもたちは笑顔いっぱい。最後に、作ったおもちを雑煮に入れて、昼食にいただきました。

「おいしい！」「また作りたい！」日本の伝統行事である「もちつき」をおいしいちゃんおばあちゃんに教えてもらいながら体験できたことは、子どもたちにとって忘れられない思い出になったことでしょう。

